

第 35 回日本地理学会地理教育公開講座

日時：2019年3月21日（木）祝日 15:10-17:30

テーマ：高等学校地理教育の課題と展望

【企画趣旨】これまで地理教育公開講座では、新高等学校地歴科地理で必修となる「地理総合」を見据え、第31回「「地理総合」とGIS」、第32回「「地理総合」と国際理解・国際協力」、第33回「「地理総合」と防災・持続可能な社会の構築」などのもとで、多くの方々と議論を重ねてきた。その成果を踏まえ、今回の第35回では、今後の学校現場と大学との連携を見据え、テーマ「高等学校地理教育の課題と展望」と設定し、高等学校地理教育の実践的な課題、そして新たな「地理総合」の在り方などについて一層議論を深めることにしたい。発表者・コメンテーター・総括者の経歴などを簡単に紹介する。鈴木氏は、数年前まで私立中学校・高等学校で地理授業を担当され、現在は、教員養成大学で地理学と地理教育の授業を担当されている。小河氏は、現在、公立高等学校で地理の授業を担当され、本年度国際地理オリンピックの引率者として代表高校生を指導された。牛込氏は、現在、都内私立中学校・高等学校で地理の授業を担当され、かつて本学会でも研究発表された。近藤氏は、公立中学校・高等学校で地理の授業を担当された経験を持ち、その後、長らく教員養成大学で大学、大学院生、現場教員への地理教育に携わっている。小岩氏は、教員養成の場で大学、大学院生に自然地理学や地理教育を教え、2017年度日本学術会議「自然地理学・環境防災教育小委員会」の委員でもある。須原氏は、豊富な高等学校の現場経験を持ち、2018年『人文地理』第70巻1号で「高校地理教育実践の課題と展望―地理新科目の設置を見据えて―」を発表され、近年の地理教育の動向を総括されている。企画・進行の吉田は、公立高等学校の現場経験を持ち、教員養成大学で大学生、大学院生、現場教員への地理教育に携わっている。議論の進め方は、まず三氏より、学校現場の経験をもとにした高等学校地理教育の課題と展望について論じていただき、次に、二人のコメンテーターからご自身の経歴や立場も踏まえてコメントしていただく。その後、フロアーからの意見をいただき、議論を深め、最後に総括していただく。

プログラム 司会：吉田剛（宮城教育大学）

15:10～15:15 委員長挨拶 田部俊充（日本女子大学）

15:15～15:35 報告 1：学習材としての地図・統計とその活用についての実践的課題」
鈴木允（横浜国立大学）

15:35～15:55 報告 2：「地理的思考力とその育成についての検討～国際地理オリンピック
の出題内容を踏まえて～」
小河泰貴（岡山県立津山高等学校）

- 15:55～16:15 報告 3 : 「学びに向かう力を養う地理授業の検討と課題」
牛込 裕樹 (大妻中野中学校・高等学校)
- 16:15～16:30 コメント① 近藤裕幸 (愛知教育大学)
コメント② 小岩直人 (弘前大学)
- 16:30～16:40 休憩
- 16:40～17:20 総合討論
- 17:20～17:30 総括 須原洋次 (龍谷大学)